

「筑波大学
特別支援教育研究」
11巻 付録誌



筑波大学
University of Tsukuba

特別支援教育研究センター

Special Needs Education Research Center
(SNERC)



沿革

平成 13 年度	「附属学校検討委員会」の設置
平成 14 年度	「特別支援教育研究センター（仮称）設置準備委員会」
平成 16 年度	「特別支援教育研究センター（Special Support Education Research Center）」 の開設・開所式
平成 17 年度	現職教員研修事業を開始 主催セミナー・交流セミナーの開始 免許法認定公開講座の開始 附属特別支援学校連携研究・附属特別支援学校への助成研究の開始
平成 18 年度	文部科学省教育協力拠点形成事業「国際協カイニシアティブ（～平成 20 度） 研究紀要「筑波大学特別支援教育研究」第 1 巻の発行 TV会議システムによる現職教員研修講義等の試験発信（～平成 19 年度）
平成 21 年度	英語名称の改称（Special Needs Education Research Center） 国際教育協力事業の開始
平成 24 年度	「教材・指導法データベース」構築事業の開始
平成 26 年度	創立 10 周年記念セミナーの開催 10 周年記念誌の発行
平成 28 年度	「特別支援教育 教材・指導法データベース」の公開（日本語版・英語版）

設置目的

平成 15 年 3 月に文部科学省から「今後の特別支援教育の在り方（最終報告）」が提出され、特殊教育は特別支援教育への転換期を迎えました。障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援と、新たなシステム作りや制度の再構築が求められることになりました。

その後、「障害者基本計画」（平成 14 年 12 月閣議決定）、「発達障害者支援法」（平成 16 年 12 月成立）などと連動し、特別支援教育体制の明確な課題として、障害のある子どもの乳児期から学校卒業後までの一貫した相談支援体制の整備と、通常学校における障害のある子どもたちへの総合的支援体制の整備がクローズアップされることとなりました。

本センターは、障害に関する研究組織である本学心身障害系（現障害科学域）及び盲（視覚障害）・聾（聴覚障害）・知的障害・肢体不自由・自閉症の 5 つの附属障害教育学校（附属特別支援学校）に蓄積された研究業績や指導法等の専門性を継承・発展させ、その発信に努めるとともに、特別支援教育の展開に資する開発的研究を推進していくことを目的として設置されました。

本センターの事業は、研究開発、教員研修、理解啓発・交流、連携・コーディネート（平成 20 年度より追加）という 4 つの機能を有しており、国内外を問わない緊密な連携および事業展開を目指しています。

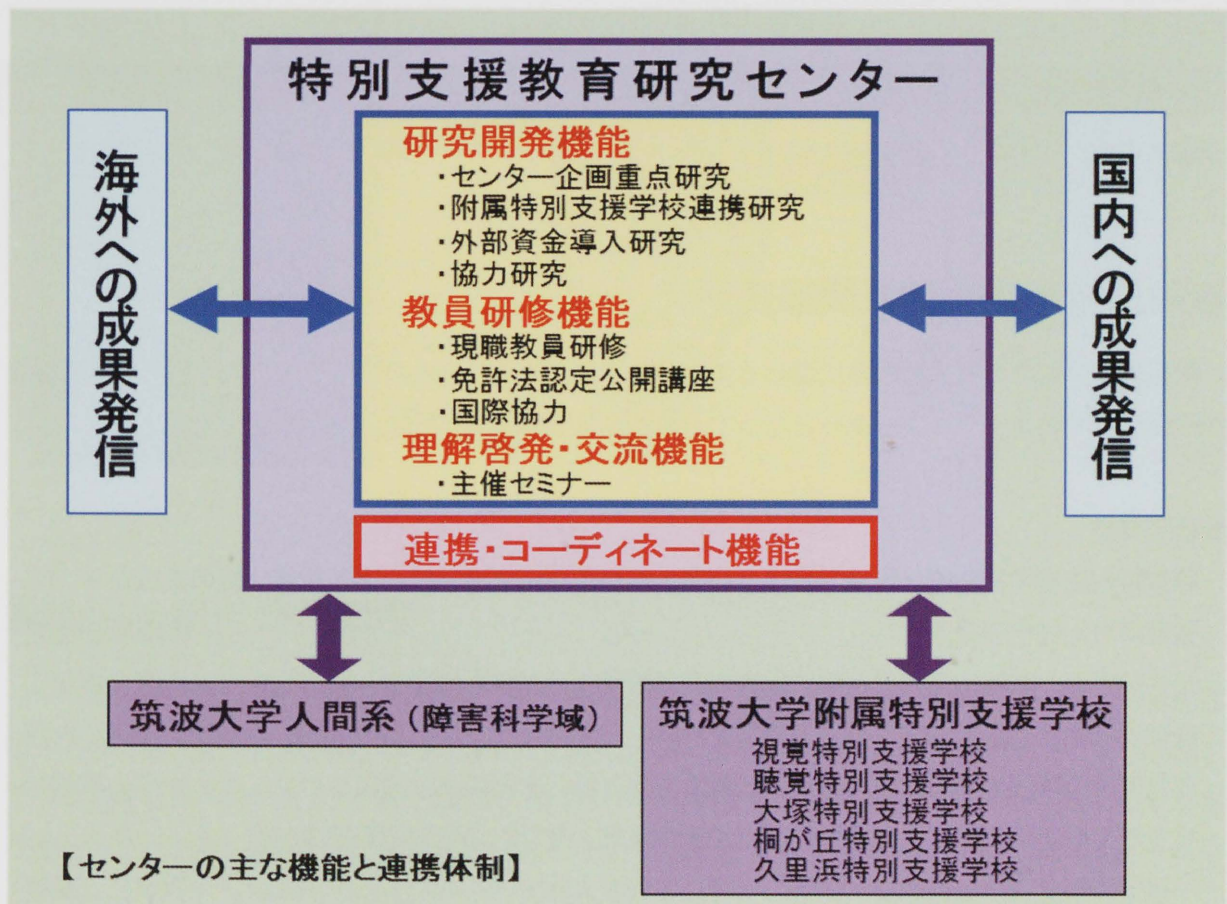
組織・運営

筑波大学は、障害科学に関するあらゆる研究分野を含んだ我が国最大の研究者組織である人間系障害科学域と5つの附属特別支援学校（視覚特別支援学校、聴覚特別支援学校、大塚特別支援学校：知的障害、桐が丘特別支援学校：肢体不自由、久里浜特別支援学校：自閉症）を擁しています。

特別支援教育研究センターは、当初、筑波大学の学内共同教育施設として設置されましたが、平成25年度の本大学におけるセンター組織の再編成により部局附属教育研究施設となりました。現在は、附属学校教育局の附属センターとして位置づけられていますが、運営は、人間系障害科学域と附属学校教育局との連携を基盤として、人間系障害科学域教員と附属特別支援学校教諭によって行われています。なかでも、附属特別支援学校5校及び障害科学域との連携は、特別支援教育研究センターの全ての事業の基盤となっています。

センターの運営機関として特別支援教育研究センター運営委員会が、連携事業の実務的調整及び運営機関として5附属連絡会議が、それぞれ組織されています。

「特殊教育体制」から「特別支援教育体制」へと転換した制度の中では、対象となる幼児児童生徒の障害の状態が多様化し、教育に携わるすべての人々に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を求めています。特別支援教育の充実には、これまでの特殊教育において蓄積された専門性の確実な継承・発展とともに、各附属特別支援学校に求められているセンター的機能の確実な発展が鍵になると考えます。



主な事業の概要

研究開発機能

■センター企画重点研究



特別支援教育研究センターと附属特別支援学校5校の協働による

筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース

特別支援教育研究センターでは、平成24年度より附属特別支援学校5校と連携して、附属特別支援学校5校のもつ教材・指導法を広く発信するためのデータベース構築に着手をはじめました。平成26年4月に完成し、現在、本センターホームページ上で一般公開されています。

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/>



焼きもの練習用模型

写真カード

コミュニケーションボード

写真サイコロ

球ひも

■附属特別支援学校間連携研究

附属学校間での特別支援教育に関わる連携研究を助成することを目的としています。センター教諭が附属学校間のコーディネーターとなって、最長3年間の長期計画に基づいて取り組みます。

●研究実績

- ・聴覚特別支援学校幼稚部乳幼児相談及び肢体不自由特別支援学校小学部重複学級の実践から、教育の可能性を探る 桐が丘, 聴覚
- ・知的障害児・肢体不自由児への効果的な食育推進プログラムの開発 大塚, 桐が丘
- ・特別支援教育におけるタブレット端末を活用した教材についての研究 桐が丘, 視覚, 大塚
- ・運動発達に課題のある知的障害幼児の就学支援と移行支援のあり方について 大塚, 桐が丘
- ・視覚認知機能に課題を抱える肢体不自由児の算数・数学科の学習指導法の研究
一視覚特別支援学校の算数・数学の指導法を取り入れて一 桐が丘, 視覚
- ・小中学校の「特別支援教室」に求められる役割と機能について 大塚, 視覚, 聴覚

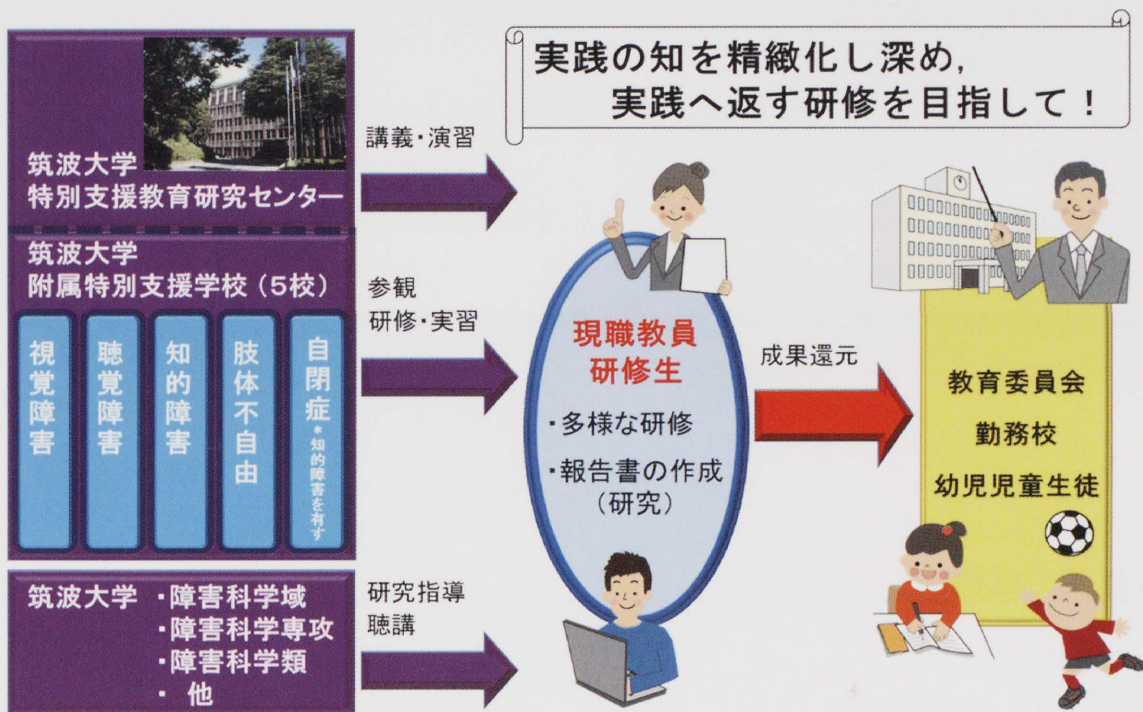
主な事業の概要

教員研修機能

■現職教員研修事業

特別支援教育のそれぞれの領域において高い専門性をもつ教員の養成を目的として、1年間（または6ヶ月間）の長期研修生の受け入れを行っています。研修後は教育委員会や学校などの実践の場へ戻り、リーダー的役割を担いながら活躍しています。研修は2つの柱で構成されています。

- 講義や演習を中心とした研修生共通の研修プログラム、附属特別支援学校での研修や実習、大学や大学院の講義の聴講などで知識や理解を深める“実践研修”
- 自分の研究テーマに基づき、指導教員の指導や助言を受けながら報告書を作成する“課題研究”



■免許法認定公開講座

本講座の特色は、特別支援学校教諭免許状の視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者の4領域における一種免許状、二種免許状の取得に必要な単位を取得することができること、筑波大学人間系障害科学域教員と附属特別支援学校5校の教諭が講義を担当することで、各領域に関する専門性と実践性の高い講座内容を提供していることです。また、視覚や聴覚に障害のある受講生への情報保障も行っています。

なお、本講座は、教育職員免許法施行規則第5章の2の規定に基づいて開設しています。

■国際協力

本センターでは、筑波大学人間系障害科学域と独立行政法人国際協力機構（JICA）と共に、開発途上国への国際教育協力及び支援として、特別支援教育にかかわる研修員を受け入れています。

本センターがコーディネーターとなり、約1ヶ月間にわたるプログラムを組み立てます。毎年10名前後の応募があり、筑波大学での講義、附属特別支援学校での参観や演習、外部関連機関の見学等に参加しています。

●支援実績

- ・ JICA 筑波地域別研修

「南米地域（エクアドル、パラグアイ、ボリビア）特別支援教育の振興」

- ・ JICA 国別研修 ボリビア国

「特別支援教育教員養成プロジェクト」

- ・ JICA 筑波課題別研修プログラム アフリカ7ヶ国

「障がいのある子どものための授業づくり」

- ・ JICA 筑波国別研修 モンゴル国

「障がいのある子どものための授業づくり」

- ・ JICA 筑波事業受託 課題別研修 アフリカ・オセアニア8ヶ国

「障がいのある子どものための授業づくり」



主な事業の概要

理解啓発・交流機能

■主催セミナー

教員だけでなく学生や保護者など様々な立場の方に向けて、特別支援教育や障害について理解を深めたり意見交換したりするためのセミナーを、年1～2回企画開催しています。



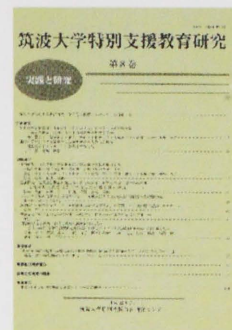
●これまでの主なトピック

各発達期に応じた教育的支援／医療や福祉など関係機関との連携／特別支援教育における専門性や役割／一人一人のニーズに応じた教育／ICT／教材の活用と教材情報の発進／等

■研究紀要「筑波大学特別支援教育研究」

年1回発行しています。

大学と附属特別支援学校が協力・連携して行った研究，附属学校をはじめとする学校現場での実践を通じた研究，障害領域に縛られない研究，本センターの研究成果，および海外の情報などが多く掲載されていることが特色です。



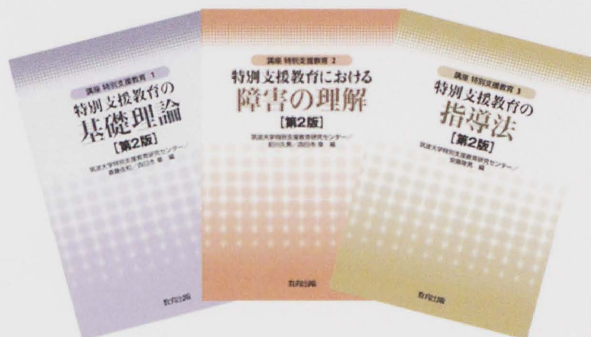
■書籍

本センター編集による「講座 特別支援教育（全3巻）」は，筑波大学人間系障害科学域教員と附属特別支援学校教諭が執筆にあたっています。

●講座 特別支援教育（全3巻）

- 第1巻 特別支援教育の基礎理論
- 第2巻 特別支援教育における障害の理解
- 第3巻 特別支援教育の指導法

発行：教育出版（平成28年8月 第2版刊行）



主な事業の概要

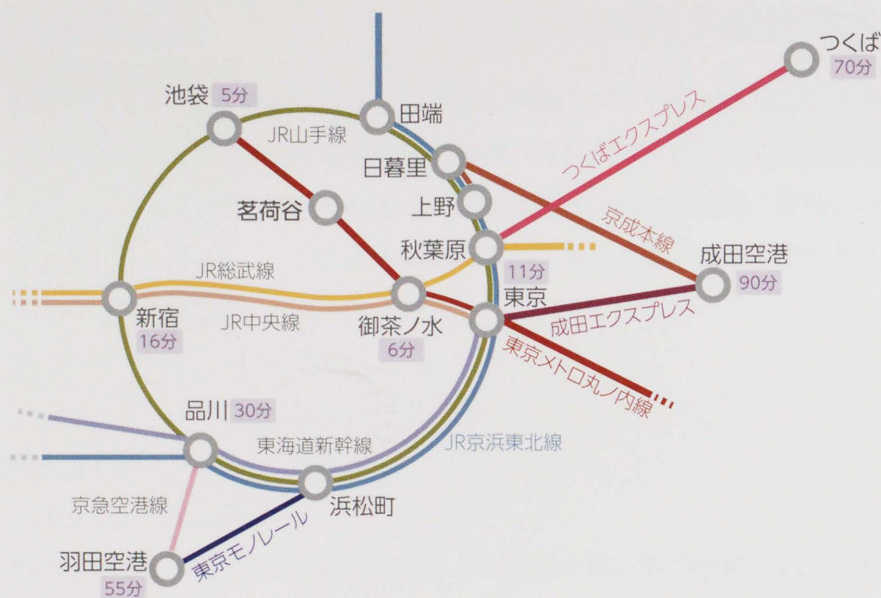
連携・コーディネート機能

■教材・指導法データベース学習会

月1回1時間程度，各附属学校から提供された教材・教具や指導法について，指導場面の動画を見たり教材に実際に触れたりしながら意見交換を行なっています。メンバーは，センタースタッフ（大学教員，附属学校教諭），各附属学校から選出された5附属連絡会議構成員，及び各附属学校の教員，障害科学域教員です。

教材の新たな活用方法やより効果的な指導法の提案の場，互いの学校の専門性を知る場，附属学校間で連携を深める場となっています。





東京メトロ丸ノ内線茗荷谷（みょうがだに）駅下車「出口1」徒歩2分



筑波大学特別支援教育研究センター

SNERC Special Needs Education Research Center

〒112-0012 文京区大塚3-29-1（筑波大学東京キャンパス文京校舎 4F）

Tel : 03-3942-6923 Fax : 03-3942-6938

E-mail: snerc@human.tsukuba.ac.jp

URL : <http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

2017年度 作成